

農業の
「見える化」で、
日本の食を
もっと豊かに。

FUJITSU

環境データを24時間計測・蓄積して人の五感を越えた最適な生産方法を導く

日本の農業の力を強くするには、ICTを活用し、農作業のデータを「見える化」することが有効だと富士通は考えています。例えば、農場の気温や湿度などの環境情報をセンシングし、無線ネットワークで収集。遠隔地で農場の状態を見える化し、蓄積したデータを農作業のプロセス最適化や後継者へのノウハウ継承に役立てようとしています。今、富士通は、農家の方々と共同で取り組み、低コストで簡易なセンシング機器の開発・改良や生産者のノウハウを活かしたシステムづくりを進め、業種業態の枠を越えたセンシング技術の適用範囲をひろげています。

富士通の「分野を越えたセンシング技術」

※この画像は、広告上の演出によるものです。

畜産の
「見える化」で、
日本の食を
もっと豊かに。

FUJITSU

環境データを24時間計測・蓄積して人の五感を越えた最適な生産方法を導く

日本の畜産強化には、ICTを活用し、家畜のデータを「見える化」することが有効だと富士通は考えています。例えば、牛などの家畜にセンサーを取り付けて一頭ごとの状態をセンシングし、無線ネットワークで収集。遠隔地で放牧管理ができ、蓄積したデータを行動分析や健康管理に役立てようとしています。今、富士通は、現場の畜産関係者の方々と共同で取り組み、低コストで簡易なセンシング機器の開発・改良や生産者のノウハウを活かしたシステムづくりを進め、業種業態の枠を越えたセンシング技術の適用範囲をひろげています。

富士通の「分野を越えたセンシング技術」

※この画像は、広告上の演出によるものです。

生態の
「見える化」で、
日本の自然を
もっと豊かに。

FUJITSU



環境データを24時間計測・蓄積して人の五感を超えた最適な環境保全に導く

日本の生物多様性保全のためには、ICTを活用し、動植物の生態を「見える化」することが有効だと富士通は考えています。例えば、餌付けに頼らず絶滅危惧種のタンチョウ保全を目指す自然採食地に、カメラ付きセンシングユニットを設置し、定期的に静止画を無線ネットワークで収集。継続的にデータを収集することで、新たな生態の発見やより効果的な採食地整備に活用しています。今、富士通は、保全活動に関わる方々と共同で取り組み、低コストで簡易なセンシング機器の開発・改良を進め、業種業態の枠を越えたセンシング技術の適用範囲をひろげています。

富士通の「分野を越えたセンシング技術」

※この画像は、広告上の演出によるものです。